

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-63	高等学校	国語	現代文B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
117明治	現B336	新 高等学校 現代文B		

1. 編修の基本方針

「国語総合」の「国語に親しみ、豊かな心と知性をもつ創造的人間を育てる」という基本方針を受けつぎ、高等学校段階の国語の能力を確実に身につけるため、新たに下記の方針を策定した。また、基本的に全ての教材の内容を通して教育基本法第2条各号に示す目標を達成するよう教材を選択し、配列した。その中で特徴的な教材については「3. 対照表」に示した。

- a 文章の的確な読解を通して、客観的に理解・認識する力、主体的に思考・判断する力を養う。
- b 文学作品を通して、日本語の美しさや表現の豊かさを味わい、その読解によって、自分自身や他の世界に対する感受性や想像力を育む。
- c 現代社会において求められる多様な言語能力を養うため、自身の考えを効果的に伝える表現力・コミュニケーション力を高める。
- d 生涯にわたり読書に親しむ習慣を身につける。

2. 対照表

(例)

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	豊かな情操を養う、という観点から、美しい情景を思い起こさせる随想「月あかり雪あかり花あかり」を冒頭教材として掲げた。	8 頁 1 行目～ 12 頁 13 行目
第2号 個人の価値を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	創造性を培い、自主及び自律の精神を養う、という観点から、実際に修学旅行を企画し、企画書にまとめてプレゼンテーション大会を行う活動を、企画書の具体例とともに掲げた。	178 頁 1 行目 ～186 頁

<p>第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う、という観点から、報道文と判決文の読み取り方を学び、それに対する自分の考えを小論文にまとめる活動を掲げた。</p>	<p>170頁1行目～177頁16行目</p>
<p>第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う、という観点から、生命や自然を見つめる姿勢についての論を展開した教材「愛づる一時間を見つめる」を掲げた。</p>	<p>66頁1行目～72頁8行目</p>
<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するという観点から、日本の伝統芸能や日本人の感性について親しみやすい文体で論を展開した教材「あるいは『風』について」を掲げた。</p>	<p>276頁1行目～285頁3行目</p>
<p>3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p>		
<p> </p>		

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
- 2 「編修の基本方針」欄には、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために編修の基本方針とした点を記入する。
- 3 「対照表」欄には、図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について記入する。詳細は次のとおりとする。
- ① 「特に意を用いた点や特色」欄には、教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、図書の構成や内容において編修上特に意を用いた点や特色について記入する。その際、教育基本法第2条各号のうち、特に関連が深いものを文末に示す。(例：第〇号)
 - ② 「該当箇所」欄には、上記内容に対応する具体的な箇所が分かるように、主な該当箇所のページ(例：〇ページ)を記入する。
 - ③ 必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 4 「上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色」欄には、上記の記載事項以外に、教育基本法第5条に示す義務教育の目的や学校教育法第21条に示す義務教育の目標、学校教育法第51条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、編修上特に意を用いた点や特色などがあれば記入する。
- 5 「編修の基本方針」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
- 6 別紙様式第4-1号の分量は5ページ以内とする。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-63	高等学校	国語	現代文B	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
117明治	現B336	新 高等学校 現代文B		

<p>1. 編修上特に意を用いた点や特色</p> <p>a 単元の構成 単元の構成は、原則としてジャンル別単元構成とした。また、大きく「前編」と「後編」に分けた。学習が系統的、かつ具体的に行われることを期待したからである。</p> <p>b 単元の配列 単元の配列は、学習者の発達段階を考慮し、易から難へと進むよう心がけた。また、年間を通じて学習が深められ、さらに発展できるように配慮した。</p> <p>c 教材の選択 教材は編修の基本方針に基づき、精選した。各種の作品・文章の中から獲得すべき価値を多く有しているものを、論理的文章、文学的文章、または実用的な文章を含めて幅広く選んだ。評論については「評論の窓」で発展的な学習もできるようにした。なお、教材のうち、筆者名のないものは、編集委員が書き下ろしたものである。</p> <p>d 注 ア 注 固有名詞・外来語や辞書では検索しにくい語句や難語句について、番号を付し、その解説をした。解説は文脈に即して行い、読解上の抵抗を少なくするようにした。 イ 注意点 *を付けて、本文読解上の注意点を質問の形で示した。 ウ 注意する語句 *を付けて、知っておきたい語句、慣用語などを掲げた。</p> <p>e 研究・言葉の学習 学習への手引きとして、教材本文の末尾に「研究」を設けた。理解力や鑑賞力を深め、発展させるための問題を中心としてある。「言葉の学習」では、言葉に関する問題一般を扱い、語句の知識の整理の問題を中心とした。</p> <p>f 付 録 ア 日本近・現代文学史年表 文学的興味・関心の深化を促し、読書への発展に資するものとした。 イ 四字熟語一覧 人口に膾炙しているもの、高校生として身につけてほしいものを掲げ、語彙習得の一環となることを期した。 ウ 小論文の書き方 小論文作成の際に参照できるよう、書き方の手順を丁寧に説明した。 エ 夏目漱石・宮沢賢治・森鷗外参考図録／『月あかり雪あかり花あかり』参考図録 収録教材の理解に資するものとして、示した。 オ 創作への導き 絵と言葉の響き合い／創作への導き 発見と言葉の響き合い 表現活動の契機となりうるものとして、創作の実例とその実践方法について、示した。</p>

2. 対照表					
図書の構成・内容		学習指導要領の内容	内容の取扱い	箇所	配当時間
見返し(写真「夏目漱石」「『こころ』自筆原稿」「『こころ』初版本」「『永訣の朝』自筆原稿」「岩手山」「『春と修羅』函の写真」「『注文の多い料理店』表紙」「森鷗外」「『舞姫』自筆原稿」「雑誌『番紅花』」)		(1) (2)	(2)	見返し1~2	
見返し(写真「どうだんつつじ」「沈丁花」「しでこぶし」「こぶし」「木蓮」)		(1) (2)		見返し3	
1 随想	月あかり雪あかり花あかり	(1) (2)	ア イ オ (1)	P. 8~13	1
	詩を翻訳する少年	(1) (2)	ア イ オ (1) (2) エ	P. 14~19	1
2 小説(1)	山月記	(1) (2)	ア イ オ (1) ア	P. 20~33	5
	赤い繭	(1) (2)	ア イ オ (1) ア	P. 34~39	3
	夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について	(1) (2)	ア イ オ (1)	P. 40~43	2
3 評論(1)	心の動脈	(1) (2)	ア イ ウ オ (1)	P. 44~48	3
	幸福について	(1) (2)	ア イ オ (1) エ	P. 49~54	3

4 詩	旅上	(1) イ オ (1) (4)	P. 55~56	1
		(2) ウ		
4 詩	永訣の朝	(1) イ オ (1) (4)	P. 57~61	1
		(2) ア		
4 詩	弟に速達で	(1) イ オ (1)	P. 62~65	1
		(2) ア		
5 評論 (2)	愛づる一時間を見つめる	(1) ア イ オ (1)	P. 66~73	3
		(2) ア		
	宇宙では「上」も「下」もない?	(1) ア イ オ (1)	P. 74~81	3
	(2) イ			
5 評論 (2)	ロボットとは何か	(1) ア イ オ (1)	P. 82~89	3
		(2)		
6 小説 (2)	ナイン	(1) ア イ オ (1)	P. 90~101	4
		(2) ア		
6 小説 (2)	白紙	(1) ア イ オ (1)	P. 102~105	1
		(2) ア		
7 評論 (3)	コンコルドの誤り	(1) ア イ オ (1)	P. 106~110	4
		(2) イ		
7 評論 (3)	通潤橋一橋と日本人	(1) ア イ オ (1)	P. 111~119	4
		(2)		
8 短歌・俳句	風が来てささやくやうに (短歌十首)	(1) イ オ (1) (4)	P. 120~122	2
		(2)		
8 短歌・俳句	いきいきとほそ目かがやく (俳句十句)	(1) イ オ (1) (4)	P. 123~125	2
		(2)		
9 評論 (4)	絵はすべての人の創るもの	(1) ア イ ウ (1)	P. 126~133	4
		(2)		
	「間」の感覚	(1) ア イ ウ (1)	P. 134~144	4
	(2)			
9 評論 (4)	【評論の窓】美を求める心	(1)	P. 145~147	
		(2)		
10 小説 (3)	こころ	(1) ア イ エ オ (1)	P. 148~169	10
		(2) ア エ		
11 実用的な文章	報道文と判決文	(1) ア イ (1) (4)	P. 170~177	3
		(2) ウ		
11 実用的な文章	企画書を書く	(1) ア イ エ (1) (4)	P. 178~186	3
		(2) ウ エ		
1 随想 (1)	はじめての失敗	(1) ア イ オ (1)	P. 188~191	1
		(2)		
1 随想 (1)	おまえはどこに立っている	(1) ア イ オ (1)	P. 192~201	2
		(2)		
2 小説 (1)	マスク	(1) ア イ オ (1)	P. 202~213	5
		(2) ア		
2 小説 (1)	オデュッセイア	(1) ア イ オ (1)	P. 214~223	4
		(2) エ		
3 評論 (1)	言葉を理解する	(1) ア イ オ (1)	P. 224~229	4
		(2)		
	【評論の窓】話者の視点がつくる日本語	(1)	P. 230~231	
	(2)			
3 評論 (1)	小説とは何か	(1) ア イ オ (1)	P. 232~237	4
		(2)		
4 詩	わたしが一番きれいだったとき	(1) イ オ (1)	P. 238~241	1
		(2) ア		
	九月の風	(1) イ オ (1)	P. 242~245	1
		(2) ア		
流星	(1) イ オ (1)	P. 246~248	1	
	(2) ア			
4 詩	創作への導き 写真と言葉の響き合い	(1) イ (1)	P. 249	
		(2) ウ		
5 小説 (2)	博士の愛した数式	(1) ア イ オ (1) (2)	P. 250~266	5
		(2)		
5 小説 (2)	怖れ	(1) ア イ オ (1)	P. 267~275	4
		(2) ア		
6 評論 (2)	あるいは「風」について	(1) ア イ エ オ (1)	P. 276~285	5
		(2) エ		
	物の見えたる光	(1) ア イ オ (1)	P. 286~297	6
	(2)			
6 評論 (2)	「世間」とは何か	(1) ア イ オ (1)	P. 298~307	6
		(2)		

7小説(3)	舞踏会	(1)	ア	イ	オ	(1)	P. 308~319	5
		(2)	ア					
8随想(2)	サフラン	(1)	ア	イ	オ	(1)	P. 320~325	2
		(2)						
9短歌・俳句	わが腕に涙ながして(短歌十首)	(1)		イ	オ	(1)	P. 326~328	2
		(2)		ウ				
	耕せばうごき(俳句十句)	(1)		イ	オ	(1)	P. 329~331	2
		(2)	ア					
10評論(3)	私の個人主義	(1)	ア	イ	オ	(1)	P. 332~348	9
		(2)		イ	エ			
付録	日本近・現代文学史年表	(1)				(2) (3)	P. 349~362	
		(2)						
	四字熟語一覧	(1)			オ		P. 363~365	
		(2)						
	小論文の書き方	(1)			エ		P. 366~367	
		(2)						
見返し	創作への導き 絵と言葉の響き合い	(1)		イ			見返し4	
		(2)		ウ				
見返し	創作への導き 発見と言葉の響き合い	(1)					見返し5~6	
		(2)		ウ				
							計	140

- (備考)
- ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
 - 「編修上特に意を用いた点や特色」欄には、学習指導要領の総則に示す教育の方針や当該教科の目標を達成するため、編修上特に意を用いた点や特色を記入する。
 - 「対照表」欄には、図書の構成・内容と学習指導要領に示す「内容」の各事項との対照について、「内容の取扱い」も踏まえて記入する。その際、「該当箇所」欄に、申請図書の該当箇所のページ(例：〇～〇ページ)を記入する。また、必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
 - 「配当時数」欄には、申請図書で予定している配当授業時数を示すこと。なお、配当授業時数の記載が必要ない教科、種目については空欄でよい。
 - 「編修上特に意を用いた点や特色」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
 - 別紙様式第4-2号の分量は5ページ以内とする。